

平成22年度

行政評価の概要



京都府南丹市

目 次

1	行政評価導入の背景	1
2	行政評価導入の目的	1
3	行政評価のながれ	2
4	総合振興計画の施策体系	3
5	施策優先度評価	4
6	行政評価推進委員会の評価（外部評価）	4
7	行政評価の概要	
第1章 生涯充実して暮らせる都市を創る		
第1節	安心して子育てできるまちをめざす	5
第2節	明日を担い、内外で活躍するひとを育てる	6
第3節	生涯にわたって学び、活かす機会をつくる	7
第4節	医・食・住の充実と高齢者や障がいのある人の自立を支援する	8
第5節	ふるさとで働ける場をふやす	9
第2章 自然・文化・人を生かした郷を創る		
第1節	豊かな緑と清流を守る	10
第2節	資源が循環するまちをつくる	11
第3節	南丹ブランドの「ほんまもん」をつくる	12
第4節	ひとを温かく迎える	13
第5節	伝統文化を継承する	14
第6節	暮らしの安全と安心を守る	15
第3章 人・物・情報を高度につなげる		
第1節	高速移動の網を広げる	16
第2節	鉄道をさらに便利にする	17
第3節	安全で快適な主要道路でつなぐ	18
第4節	誰もが安心な地域交通システムをつくる	19
第5節	双方向の情報通信基盤をつくる	20
第6節	にぎわいの市街地をつくる	21
第4章 共に担うまちづくりの仕組みを築く		
第1節	共に生きるまちづくりを進める	22
第2節	住民自治の地域づくりを進める	23
第3節	多様な担い手のパートナーシップを育てる	24
第4節	大学等と連携し、ともにまちをつくる	25
第5節	未来を担う人づくりを進める	26
第6節	行財政改革を推進する	27

1. 行政評価導入の背景

急速に進む少子高齢化による人口構造の変化で、新たな行政需要の拡大や税収入の減少など、今後は、さらに厳しさを増す財政状況の中で、複雑化・多様化する市民ニーズに的確に対応していくには、施策の重点化や選択など行政運営の効率化が求められます。

2. 行政評価導入の目的

行政活動（施策・事務事業）を、一定の基準（視点）・指標（ものさし）を使って客観的に評価して、その効果・目標達成度などを継続的にチェックし、行政資源の効率的な配分に役立てるなど、具体的に次のことを目的とします。

効率的で質の高い行政の実現

計画（Plan）－ 実行（Do）－ 評価（Check）－ 改善（Action）というマネジメントサイクルを確立し、職員が担当する事業を継続して自己点検・評価することにより効率的で質の高い行政を実現します。

結果重視から成果重視の行政の推進

市民目線での成果を指標化し、継続して達成度を評価することにより、成果重視の行政を推進します。

市民への説明責任の履行

行政活動に関する評価結果等を公表することにより市民に対する説明責任を果たします。

職員の意識改革

行政評価を通じて、日々の仕事に次の3つの視点を活かせるような職員の意識改革を図ります。

3つの視点

市民

市民目線で政策形成を行い、常に市民の満足度を高めるようなサービス品質の向上を図る。

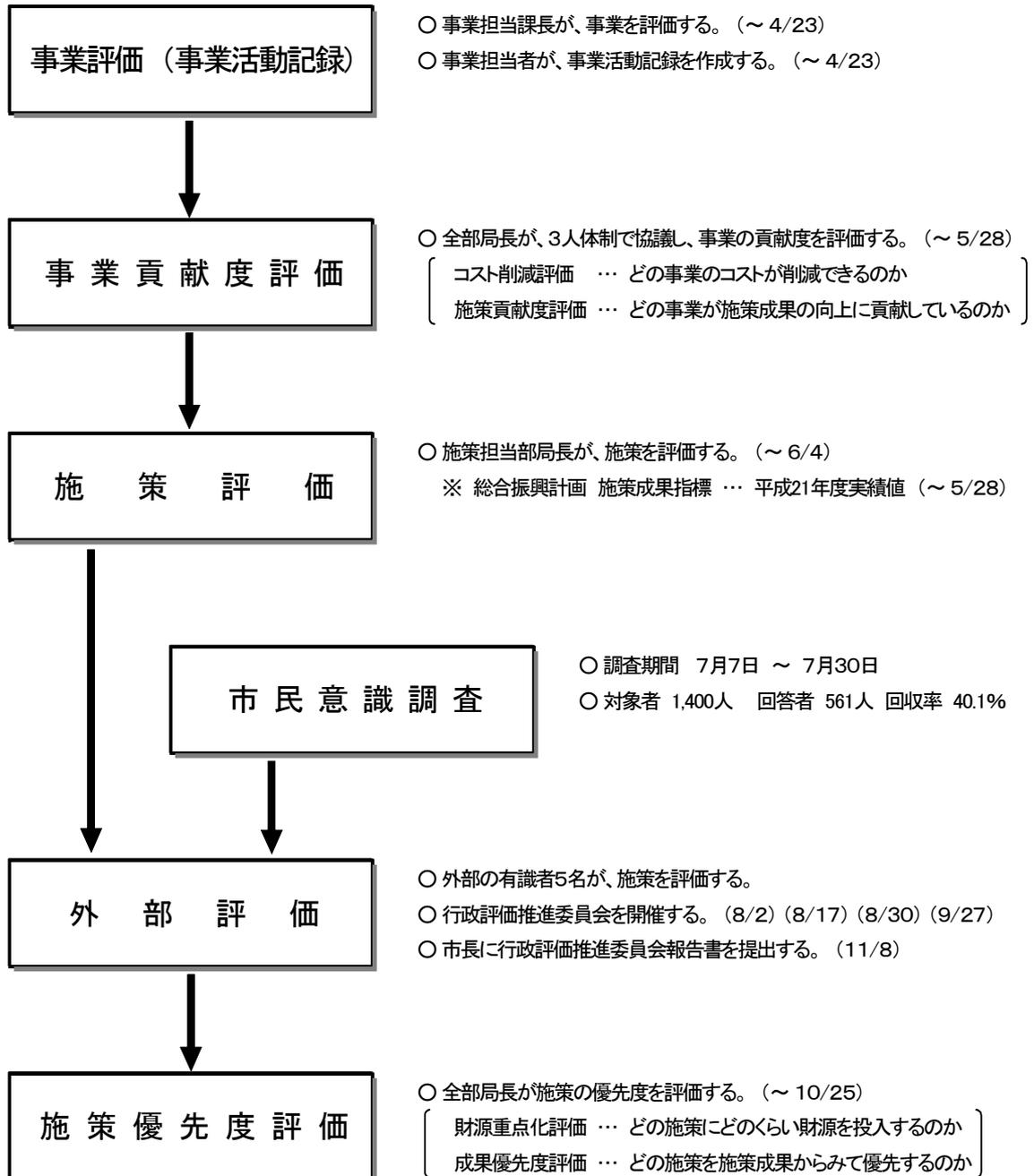
目的

担当する事業やその上位施策の目的を明らかにし、自分が果たすべき使命や目標を設定する。

コスト

事業費は、自らの人件費や間接費などを含んだトータルなコストとして認識する。

3. 行政評価のながれ



4. 総合振興計画の施策体系



5. 施策優先度評価

成果優先度評価では、成果からみて施策の中でどれを優先するのか「高」「中」「低」で評価し、財源重点化評価では、どの施策に財源をどれぐらい投入するのか「大」「中」「小」で評価し、総合的に施策優先度の評価をしています。



6. 行政評価推進委員会の評価（外部評価）

次の視点等を参考に、総合的に判断して「優」「良」「可」「不可」の判定をします。

「行政評価の概要」には、平成20年度、平成21年度の外部評価も含まれています。

区分	視 点
妥 当 性	<ul style="list-style-type: none"> 市民や社会の要求に合致しているか 上位政策を達成するために必要な施策・事業か 行政が関与しなければならない事業か
有 効 性	<ul style="list-style-type: none"> 市民の満足度は高いか 成果指標値から見て、施策目標の達成度はどうか 目的達成のための手段は有効か
効 率 性	<ul style="list-style-type: none"> 費用対効果の度合いはどうか それが最も効率的な方法なのか

7. 行政評価の概要

第1章 生涯充実して暮らせる都市を創る

第1節 安心して子育てできるまちをめざす

目的

- 安心して子育てができる環境を整える。

課題

- 南丹市の出生率が年々減少傾向にある。
- 子育てに対する不安や悩みを解消する必要がある。

取組

- 子宝祝金
- 子育て手当
- 子育て医療費助成
- 子育て広場
- 子育て支援センター
- 保育サービス
- 子育てボランティア
- 放課後児童クラブ など

▶ 施策の成果

目標項目(成果)	単位	H20	H21		H22	H23	H24
		実績値	目標値	実績値	目標値	目標値	目標値
地域で子育てができていると思う市民の割合	%	65.6	68.0	32.2	70.0	75.0	80.0
子育て支援関係ボランティア登録数	人	29	30	50	32	34	36
支援センター参加(登録)者数	人	6,913	7,800	5,966	8,600	9,300	9,800

▶ 市民の意識

Q : 南丹市が安心して子育てのできるまちだと思われませんか。

- ・ そう思う / どちらかといえばそう思う ||||| 43.9 %
- ・ そう思わない / どちらかといえばそう思わない ||||| 16.6 %
- ・ どちらともいえない ||||| 36 %

▶ 内部評価

成果優先度評価	財源重点化評価	施策優先度評価
高	大	AAA

▶ 外部評価

行政評価推進委員会評価
可

● 今後の方向性

- 子育て支援条例等に基づき、安心して子どもが産み育てられるよう地域全体で子供を育む機運を高めるとともに、子育て家庭を見守り、支えていく子育て環境を整備していく。
- 若者の結婚、就労、住居、経済的支援も含めた総合的な少子化対策に取り組んでいく。
- 仕事と家庭の両立を目指した保育サービス、家庭での子育てサポート等を充実する。
- 子ども達の生きる力、豊かな心を育くむ教育環境を充実していく。
- 保健・福祉・医療及び教育の連携等による母子共に健康を確保できる環境づくりをする。

第1章 生涯充実して暮らせる都市を創る

第3節 生涯にわたって学び、活かす機会をつくる

目的

- 生涯学習の社会を実現する。
- 地域コミュニティ活動の持続した社会を実現する。

課題

- 自ら進んで学習・運動に取り組んでいる割合が低い。
- 普段に生活の中で、文化・芸術に触れる機会が少ない。

取組

- 公民館 ● 図書館 ● 学習機会の提供
- 社会教育関係団体 ● 各スポーツ施設、競技スポーツ
- 総合地域型スポーツクラブ ● 文化芸術 など

▶ 施策の成果

目標項目(成果)	単位	H20	H21		H22	H23	H24
		実績値	目標値	実績値	目標値	目標値	目標値
生涯学習活動事業数	事業	20	22	29	23	24	25
スポーツ・レクリエーション施設の利用者数	人	227,789	228,000	208,938	228,500	229,000	230,000
社会教育施設の利用者数	人	89,505	89,600	91,600	89,800	89,900	90,000
文化サークル数	団体	159	159	159	159	159	160

▶ 市民の意識

Q：過去1年間に、健康や楽しみのために運動をされましたか。

- ・ ほぼ毎日した / 週・月に数回程度した ||||| 46.5 %
- ・ しなかった / 年間で数回程度した ||||| 52.8 %

▶ 内部評価

成果優先度評価	財源重点化評価	施策優先度評価
低	中	CC

▶ 外部評価

行政評価推進委員会評価
良

● 今後の方向性

- 市民の自発的な学習活動が展開できる方策をさぐりながら検討していく。
- 社会教育施設や社会体育施設の今後のあり方について方向性を示していく。
- 指定管理の公募について、今後、施設の利活用や目的に照らして検討していく。

第1章 生涯充実して暮らせる都市を創る

第5節 ふるさとで働ける場をふやす

目的

- 地域における雇用を促進する。
- 市の財政を支える産業基盤を強化する。

課題

- 地域雇用の促進が必要である。
- 新たな企業誘致や起業支援が必要である。

取組

- 京都新光悦村への企業進出の促進
- 商工団体などとの連携強化
- 誘致企業への支援、起業支援 など

▶ 施策の成果

目標項目(成果)	単位	H20	H21		H22	H23	H24
		実績値	目標値	実績値	目標値	目標値	目標値
起業又は誘致した企業数	件	33	36	35	37	38	40

▶ 市民の意識

調査項目なし

▶ 内部評価

成果優先度評価	財源重点化評価	施策優先度評価
中	大	BBB

▶ 外部評価

行政評価推進委員会評価
優

● 今後の方向性

- 市内の大学等の卒業生が、工芸などの起業をしやすいよう支援に努めていく。
- 新光悦村について、進出表明した会社への働きかけを引き続きしていく。
- 地域ニーズに対応した福祉や環境など各分野で可能性のあるコミュニティビジネスなどの展開を図っていく。
- 農林業、観光産業等が「働く場」としていっそう拡大するための各団体との連携を図っていく。

第2章 自然・文化・人を活かした郷を創る

第2節 資源が循環するまちをつくる

目的

- 資源の循環やエネルギーの有効利用に取り組む。
- 自然エネルギーの活用や省エネルギーの普及に努める。
- 安全でおいしい水を安定的に供給する。
- 市民の衛生的な暮らしを確保する。

課題

- ごみの量は年々増加傾向となっている。
- 市民の暮らしをより衛生的に、より安定的にしなければならない。

取組

- ごみ減量化・再利用
- 環境負荷低減
- 水源確保
- 河川環境保全活動
- 公共施設における省エネルギー
- 公共下水道施設の早期整備
- 水洗化率の向上
- 合併処理浄化槽の設置促進 など

▶ 施策の成果

目標項目(成果)	単位	H20		H21		H22	H23	H24
		実績値	目標値	実績値	目標値	目標値	目標値	目標値
1人1日あたりのごみ排出量	g	592	500	569	470	430	400	
リサイクルごみ回収量(年間)	kg	563,894	564,000	562,751	564,500	565,000	565,000	
下水道区域水洗化率	%	76.9	77.2	79.8	79.8	82.2	84.2	
合併浄化槽区域水洗化率	%	85.0	86.2	87.9	87.5	88.8	90.1	

▶ 市民の意識

調査項目なし

▶ 内部評価

成果優先度評価	財源重点化評価	施策優先度評価
中	中	BB

▶ 外部評価

行政評価推進委員会評価
良

● 今後の方向性

- 農村環境公園等の運営は、活用方策、経営改善計画等について検討していく。
- 環境基本計画に合わせて、新エネルギー施策などの新たな事業展開を検討していく。

第2章 自然・文化・人を活かした郷を創る

第4節 ひとを温かく迎える

目的

- 観光による集客数を増やし、観光消費額を増やす。
- 人とひととの交流を推進する。

課題

- 観光入込客は横ばい、又は減少傾向となっている。
- 各種交流イベントは、入込客の増加、また、市民の一体感の醸成に向けた市民交流の効果は薄い。

取組

- 観光ネットワーク体制
- 営業力・ホスピタリティ向上
- 景観保全・美化
- 施設バリアフリー化
- 観光情報発信
- 温泉施設と他の資源の融合
- 温泉の活用
- 特産品開発・販路開拓
- 体験農園などの整備、河川環境
- 各種イベント
- グリーンツーリズム
- 国際交流 など

▶ 施策の成果

目標項目(成果)	単位	H20	H21		H22	H23	H24
		実績値	目標値	実績値	目標値	目標値	目標値
観光入込客	千人	1,516	1,700	1,790	1,800	1,900	2,000
観光消費額	百万円	2,023	2,100	2,079	2,150	2,180	2,200
外国人の入込客(宿泊)数	人	439	450	533	460	480	500

▶ 市民の意識

調査項目なし

▶ 内部評価

成果優先度評価	財源重点化評価	施策優先度評価
低	中	CC

▶ 外部評価

行政評価推進委員会評価
可

● 今後の方向性

- 市域が広大で観光拠点施設も分散しているので、モデルコースの設定によってそれぞれの施設を活用し、滞在時間を延長させる仕掛けづくりをしていく。

第1節 高速移動の網を広げる

目的

- 交通アクセスの向上を図り、市外との物流を促進させる。

課題

- 京都縦貫自動車道の全線開通、R9号の渋滞解消が必要である。
- 国道の狭あい箇所等未整備区間の整備が必要である。
- 道路整備の促進により広域的なアクセス向上を図る必要がある。

取組

- 京都縦貫自動車道の全線開通に向けた組織的な取組
- 国道の危険箇所整備や機能向上に向けた国や府への要望活動

▶ 施策の成果

目標項目(成果)	単位	H20	H21		H22	H23	H24
		実績値	目標値	実績値	目標値	目標値	目標値
京都縦貫自動車道の完成度	%	70.0	70.0	71.3	70.0	70.0	80.0

▶ 市民の意識

調査項目なし

▶ 内部評価

成果優先度評価	財源重点化評価	施策優先度評価
低	小	C

▶ 外部評価

行政評価推進委員会評価
不可

● 今後の方向性

- 特になし（評価できない）

第3章 人・物・情報を高度につなげる

第2節 鉄道をさらに便利にする

目的

- 流入人口や定住人口を増やし、活気のあるまちづくりを進める。

課題

- 大都市圏の都市交通の機能を担う運行形態が不十分である。
- 利用者は、近年わずかしか増えていない。

取組

- JR山陰本線複線化、園部駅以北の利便性向上
- 公共交通ターミナルの機能強化
- 駅周辺的环境美化の推進 など

▶ 施策の成果

目標項目(成果)	単位	H20	H21		H22	H23	H24
		実績値	目標値	実績値	目標値	目標値	目標値
市内JR各駅の1日の乗降客数(前年度実績)	人	14,186	15,000	15,337	15,000	18,000	18,000

▶ 市民の意識

調査項目なし

▶ 内部評価

成果優先度評価	財源重点化評価	施策優先度評価
中	中	BB

▶ 外部評価

行政評価推進委員会評価
良

● 今後の方向性

- 園部以北、園部・綾部間の複線化促進活動を強化していく。
- 現状の JR ダイアの利便性の向上、駅及び駅関連施設の更なる整備を進めていく。

第3節 安全で快適な主要道路でつなぐ

目的

- 市域の一体化の醸成、暮らしの利便性向上、過疎化を防止する。

課題

- 市道は、危険箇所や狭あい区間が多く残っている。
- 生活道路は、緊急車両の通行確保の課題がある。
- 歩行者優先の人にやさしい安全な道路づくりも重要となっている。

取組

- 国や府への要望
- 安全性、利便性向上
- 広域農道や広域林道
- 自転車専用レーン など

▶ 施策の成果

目標項目(成果)	単位	H20	H21		H22	H23	H24
		実績値	目標値	実績値	目標値	目標値	目標値
道路改良率	%	62.40	63.03	62.50	63.43	63.83	64.23

▶ 市民の意識

調査項目なし

▶ 内部評価

成果優先度評価	財源重点化評価	施策優先度評価
中	中	BB

▶ 外部評価

行政評価推進委員会評価
良

● 今後の方向性

- 道路整備十カ年計画を基本とし、集中と選択により事業化を図っていく。
- 道路新設から道路改良や道路維持管理に重点を置いた整備を進めていく。

第3章 人・物・情報を高度につなげる

第4節 誰もが安心な地域交通システムをつくる

目的

- 交通弱者に対して、適切な移動手段を確保する。

課題

- 市民の移動手段を十分確保できるまでには至っていない。

取組

- 体系的なバス交通網
- バス利用推進
- 誰もが乗り降りしやすく、環境に配慮したバス車両の導入
- 外出支援サービス
- 福祉有償輸送活動 など

▶ 施策の成果

目標項目(成果)	単位	H20	H21		H22	H23	H24
		実績値	目標値	実績値	目標値	目標値	目標値
市営バス年間利用者数(前年度実績)	人	251,128	255,000	250,249	255,000	255,000	255,000
福祉タクシー事業所数	事業所	11	11	11	12	12	13

▶ 市民の意識

調査項目なし

▶ 内部評価

成果優先度評価	財源重点化評価	施策優先度評価
高	大	AAA

▶ 外部評価

行政評価推進委員会評価
良

● 今後の方向性

- 南丹市全域の高齢者を中心とした交通弱者対策として、新たな交通システムを構築する必要がある、具体的な検討をしていく。

第6節 にぎわいの市街地をつくる

目的

- 魅力あるまちとして再生を図り、市内商業の活性化を進める。

課題

- 旧来からの市街地が空洞化している。
- 高齢化、商業の低迷等により、かつてのにぎわいを失いつつある。

取組

- 都市計画の推進 ● 土地区画整理事業
- 「都市計画マスタープラン」「緑の基本計画」の早期策定
- 交流拠点、空き店舗対策 ● イベント開催の支援
- 地域拠点の創出 ● まちづくり活動団体の支援
- 商業者の支援・育成活動 など

▶ 施策の成果

目標項目(成果)	単位	H20	H21		H22	H23	H24
		実績値	目標値	実績値	目標値	目標値	目標値
区画整理進捗度	%	67.0	75.0	75.0	80.0	90.0	100.0
商工会会員数	人	843	850	798	860	880	900

▶ 市民の意識

Q：南丹市の商店街(商業)がにぎわっていると思われませんか。

- ・ そう思う / どちらかといえばそう思う | 1.8 %
- ・ そう思わない / どちらかといえばそう思わない ||| 86.5 %
- ・ どちらともいえない ||| 10.7 %

▶ 内部評価

成果優先度評価	財源重点化評価	施策優先度評価
中	中	BB

▶ 外部評価

行政評価推進委員会評価
良

● 今後の方向性

- 商業活性化に向け、行政支援がどこまで出来るのかを関係者と協議する中で方向を出していく。
- 園部の中心市街地に賑わいを取り戻すため、にぎわいコンソーシアム園部を中心に町の声に耳を傾け、賑わい創出のための事業を立案・実践を継続して進めていく。

第4章 共に担うまちづくりの仕組みを築く

第2節 住民自治の地域づくりを進める

目的

- 地域コミュニティを持続、再生しながら、地域の課題解決に向けた協働のまちづくりを進め、地域の活性化を図る。

課題

- 地域コミュニティの活力を活かす地域づくりができていない。
- 共助の機能や地域独自の価値観の存続が危惧されている。
- 住民自治組織は、地域課題に連動した取組が十分できていない。
- 共助の機能が低下し、まちづくりへの参画が希薄になっている。
- 行政依存体質がなくなる。

取組

- 住民自治組織との対話と連携の推進
- 地域内の連携組織
- 地域の自主的、主体的な活動への支援
- 自助、共助、公助のバランスを重視した地域経営体制の確立
- 生涯学習活動を推進し、まちづくりに対する市民の意識改革 など

▶ 施策の成果

目標項目(成果)	単位	H20	H21		H22	H23	H24
		実績値	目標値	実績値	目標値	目標値	目標値
地域活動や市民自主活動に参加した市民の割合	%	72.4	73.0	58.5	76.0	79.0	80.0

▶ 市民の意識

Q：自分の住んでいる地域に活力があると思われませんか。

- ・ 大きな活力がある / 多少の活力がある 29.1 %
- ・ 全く活力はない / あまり活力がない 46.2 %
- ・ どちらともいえない 23.9 %

▶ 内部評価

成果優先度評価	財源重点化評価	施策優先度評価
中	中	B

▶ 外部評価

行政評価推進委員会評価
良

● 今後の方向性

- 少子高齢化により「限界集落」「準限界集落」が増加傾向で、地域コミュニティの維持が難しくなっている状況なので、有効な地域づくりの支援策を検討していく。

第4章 共に担うまちづくりの仕組みを築く

第3節 多様な担い手のパートナーシップを育てる

目的

- 市民の参画によるまちづくりを推進する。

課題

- 今後は、地方の自主性がますます求められている。
- 従来の政策決定方法や事業実施手法では、多様性や柔軟性、事業の効率性などで不十分な面がある。

取組

- 南丹市市民参加と協働の推進に関する条例
- 地域住民や団体の参画 ● 各種協議の場への市民参加
- NPOや地域住民が主体となつて行う市民主体のまちづくり支援
- 人材登用制度 ● 地域・市民提案を活かす仕組み など

▶ 施策の成果

目標項目(成果)	単位	H20	H21		H22	H23	H24
		実績値	目標値	実績値	目標値	目標値	目標値
NPO数	団体	21	22	22	27	32	35
達人バンク登録数	人	0	100	0	150	180	200
広報広聴会参加者数	人	761	800	363	850	900	950

▶ 市民の意識

調査項目なし

▶ 内部評価

成果優先度評価	財源重点化評価	施策優先度評価
中	小	B

▶ 外部評価

行政評価推進委員会評価
良

● 今後の方向性

- 「南丹市市民参加と協働の推進に関する条例」の施行に伴い、新たなまちづくり支援制度も創設し、「市民参加と協働のまちづくり」を推進していく。

第4章 共に担うまちづくりの仕組みを築く

第5節 未来を担う人づくりを進める

目的

- 将来の南丹市を担う人材を育てる。

課題

- 豊かな地域資源をかけがえのない財産として見つめ、「ふるさと南丹」に対する価値観を大切に育み、まちを担う市民を増やす取組が十分でない。

取組

- 学校教育
- 実践的な体験学習
- 市内大学等との連携
- 後継者を育てる取組み
- 転居者支援
- 地域リーダー育成
- まちづくりの多様な担い手育成
- 海外ホームステイ事業
- 海外交流事業 など

▶ 施策の成果

目標項目(成果)	単位	H20	H21		H22	H23	H24
		実績値	目標値	実績値	目標値	目標値	目標値
生産年齢層(15~64歳)の人口	人	20,581	20,203	20,303	19,839	19,482	19,132

▶ 市民の意識

調査項目なし

▶ 内部評価

成果優先度評価	財源重点化評価	施策優先度評価
低	中	CC

▶ 外部評価

行政評価推進委員会評価
不可

● 今後の方向性

- 地域の産業を支える仕組みとして、個人対応だけでなく、NPOや集落営農組合等の団体育成も行っていく。
- 伝統工芸大学校の卒業者が南丹市で活動できるよう設備や環境の支援整備を行っていく。

第4章 共に担うまちづくりの仕組みを築く

第6節 行財政改革を推進する

目的

- 市民により満足度の高い、きめ細やかな行政サービスを提供する。
- スリムで効率的、効果的な行財政運営の構築をめざす。

課題

- 市民ニーズは、多様化しており、的確な対応が迫られている。
- 自主財源よりも依存財源に頼る財政運営となっている。

取組

- 行政情報の提供 ● 電子化 ● 行政改革 ● 行政評価
- 職員定員管理 ● 職員の資質向上 ● 公共施設の有効利用
- 民間委託・指定管理者制度 ● 新庁舎整備 など

▶ 施策の成果

目標項目(成果)	単位	H20	H21		H22	H23	H24
		実績値	目標値	実績値	目標値	目標値	目標値
住みやすいと思う市民の割合	%	59.0	63.0	50.1	67.0	71.0	75.0
経常収支比率(前年度決算)	%	95.8	95.5	97.7	95.3	95.1	95.0

▶ 市民の意識

Q：総合的に見て、南丹市が行っている行政サービスに満足していらっしゃいますか。

- ・ 満足している / どちらかという満足している ██████████ 24.4 %
- ・ 満足していない / どちらかという満足していない ██████████ 31.6 %
- ・ どちらともいえない ██████████ 42.6 %

▶ 内部評価

成果優先度評価	財源重点化評価	施策優先度評価
中	中	BB

▶ 外部評価

行政評価推進委員会評価
良

● 今後の方向性

- 各部署における責任の明確化を図り、行政改革の進捗管理の強化を行っていく。
- 役職ごと、特に管理職研修など職員の意識改革を引き続き進めていく。
- 人事評価の早期導入を検討していく。